



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：ロウハーニー大統領のトルコ訪問

6月9日から10日、イランのロウハーニー大統領はトルコを訪問した。イラン大統領によるトルコ訪問は、2008年8月のアフマディーネジャード以来6年ぶり。

9日、ロウハーニー大統領はギュル大統領と会談。会談後に実施された共同記者会見において、ギュル大統領は、トルコは中東から大量破壊兵器が除去されることを望むとともに、平和目的の原子力エネルギーを利用する権利は奪われるべきではない、イランに対する経済制裁が早期に解除されることを望むと述べた。また、ギュル大統領はシリア問題が議題に挙げたことに言及したものの、詳細については明かさなかった。同日、ロウハーニー大統領はエルドアン首相とも会談。共同記者会見において、イランとトルコは中東地域における過激主義との闘いで協力していくことを決定したと述べた。10日には、合同戦略協力委員会の第1回会合が実施され、会合後には経済・通商分野における二国間関係の強化について強調した共同声明が発出された。

イランとトルコの関係は、2010年5月にはトルコとブラジルが共同してイラン保有の低濃縮ウランを国外に搬出し、核燃料化を代行するという案を提示するなど、2000年代以降は比較的良好であった。また、クルド労働者党（PKK）、モジャーヘディーネ・ハルグ（MKO）という反政府組織をそれぞれ抱えている両国は、テロ対策の分野においても協力が進められてきた。しかし、2012年以降、シリア紛争を巡る立場の相違から両国の関係は著しく悪化していた。そのような中、2013年8月のロウハーニー政権の誕生は、二国間関係の改善のきっかけとなった。2014年1月にエルドアン首相によるイラン訪問が実現し、テロへの共同対処、合同戦略協力委員会の設置、2015年に二国間の貿易額が300億ドルに達することを目標とすることで合意した。

トルコにとってイランは第三の輸出市場であるとともに、天然ガスの主要輸入先でもある。トルコのユルドゥズ・エネルギー相は、1月30日の『Reuters』紙のインタビューにおいて、「ガス価格で折り合いがつけば、イランからの天然ガスの輸入量を2倍にする」と発言するなど、トルコはイランからの天然資源の供給に大きな期待を寄せている。また、トルコ経由で欧州向けに天然ガスを提供するパイプラインの建設計画などの事業計画も協議中である。

（村上研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799